



広く焼失した市街地



倒壊した家屋が広がる市街地



地盤隆起した漁村集落



多くの旅館が被災した温泉街



被災した登録文化財



甚大な被害を受けた歴史的地区

能登地震でのポスト近代復興の実現

近代復興では、人口増加を前提に、国土の成長発展と災害に強い国土を目指し、基盤整備や建物の不燃化・高層化が志向され、自然を人工的な力で制御する方向で、より強度の高い性能や仕様が求められてきた。しかし、人口減少と成熟社会の段階にある現代のポスト近代復興の現場では、地域の生業や生活、自然との共生を重視し、ソフトとハードのバランスが取れた韌やかさが大切となっている。

広く焼失した市街地、隆起した漁村集落、甚大な被害を受けた歴史的地区、多くの旅館が被災した温泉街、津波で被災した地区など、多種多様な被害への適切な対応が求められる能登被災地。地域の被災状況、まちづくりの在り方に対応した適切な事業の選択、生業コモンズと生活コミュニティに配慮した、丁寧なポスト近代復興の実現が望まれる。

【所属機関・連絡先】

愛知工業大学 益尾孝祐 Tel : 080-3014-8150 E-mail : k-masuo@aitech.ac.jp